

コスモス 8月号

第71巻 第8号

◆宮柁ニカレンダー(53) 八月の歌

またたびを食みては昼をウキスキー飲みつつ
ぞゐる八月十五日
歌集『忘瓦亭の歌』

初出は、「短歌」昭和51年1月号。掲出歌を含む二〇一首が一挙に掲載された。この歌数は異例といつてよい。掲出歌はその第一首、異同はない。

当時すでに柁二の手首はリウマチに冒され、髯を剃ることが困難になっていた。マタタビの生薬名は木天蓼。リウマチにも用いられる。一首からは、みずからは生きて病を養いながら、戦禍で命を落としたり人々にウイスキーを手向ける一人の姿が思い浮かぶ。茨城県土浦に近い地点で軍を解かれてから三十年目のその日であった。
(有川知津子)